

手話通訳の現場 - 聴覚障がい者向けフラレッスン -

フラ・キエさんが聴覚障がいのある人向けにフラレッスンを初開催！ここでも手話通訳者さんが活躍していました



先生のお手本のフラダンスも一緒に踊りながら手話で伝えます



低音は聞こえる場合もあるのですが、マイブヘケという低音の打楽器も使いました

記者さんの取材も横で手話通訳！

口の動きも大切！大きく口を動かして手話とともに伝えます



フラ・キエさん 草野 朋子さん

聴覚障がいのある人たちのフラダンスを見たのがきっかけで、聞こえない人たちともフラを楽しみたいと今回のレッスンを企画しました。手話通訳者さんにあいさつの手話も教えてもらい、聞こえない皆さんは口元を見るとのことなので、口の動きが見えるようにはっきりしゃべってジェスチャーしました。音楽に乗るのは難しいと思っていましたが、皆さんしっかり私の動きについてきていて、最終的に1曲通して踊ることができ、楽しんでいただけたようで良かったです。



聞こえない人からも「フラダンスには興味があったけど聞こえないからきっかけがなかった。今日はとっても楽しかった！」との声がありました

聞こえない皆さんにたくさん助けられてきた

例えば、診察を受ける時に、本人が医師に言ってもらいたいこと、言ってもらえないことを理解した上で一緒に診察室に入って、本人が話しやすい空気を作るようにしています。

— 聴覚障がいのある人もない人も垣根なくつながるために、今後やっていきたいことはありますか。

池上さん 手話奉仕員養成講習会に毎年15人ほどが参加します。ここで手話ができる人、聴覚障がい理解がある人を増やしていきたいです。

小倉さん 私はこれまで、聞こえない人たちに励まされたり、見守られたりと、たくさん助けられてきました。「障がいのある人」助けられる存在「在」ではなく、同じ場所にいる人同士、困ることがあれば助け合う。それが普通なんだと知ってもらいたい。福祉とか障がいに関わりのない人たちに、簡単な手話を知ってもらったり、今回の取材も「専任手話通訳者に聞いてみよう」とつながるきっかけになったら良いと思います。

例えば、診察を受ける時に、本人が医師に言ってもらいたいこと、言ってもらえないことを理解した上で一緒に診察室に入って、本人が話しやすい空気を作るようにしています。

— 手話通訳をするときに意識していることはありますか。

池上さん 友人が大学に通い直すときに、手話奉仕員養成講習会を知りました。学び始めて、通じた！嬉しい！と楽しんでいましたが、通訳の先輩たちが本当に忙しそうで、通訳者の必要性を感じて、手話通訳者の試験を受けました。

— 手話通訳者には「専任手話通訳者」と「登録手話通訳者」がありますが、この違いはなんでしょうか。

小倉さん 登録手話通訳者は、派遣先に出向いて通訳を行い、報告書を提出します。派遣先は、行政の行事から聞こえない人が行く病院や学校などさまざま。専任手話通訳者は、派遣内容に合わせて、依頼者や通訳者のコーディネートを行います。登録手話通訳者さんと定期的に会議をしたり、依頼者の聞こえない人たちの相談に乗ったりもします。もちろん、私たちも通訳を行いますよ。

池上さん 登録から専任の手話通訳者になると、聞こえない人たちの関わりも深くなって、初めて知るところがたくさんありました。もっとサポートが必要だと思っていたのが、独力で生活している姿を見て逞しさも感じましたね。

市内在住・在勤の聴覚障がい者および音声・言語機能障がい者等で身体障害者手帳の交付を受けている人向け

手話通訳者派遣事業

派遣時間 8:30～22:00
※緊急時は時間外も派遣

派遣内容
・生活、医療、職業、教育等に関すること
・その他社会参加促進等に必要と認められること

派遣区域および費用
原則として埼玉県内。県外は要相談。原則として無料。ただし県外交通費および入場料等利用者負担

遠隔手話サービス

スマートフォンなどを利用して手話通訳を行います。市役所の窓口でも通信機器（パソコン）等を利用して対応します。

利用時間 月曜日～土曜日 8:30～17:15
※1回1時間を超えない範囲

費用 無料※通信料は利用者負担

利用方法 事前にスマートフォンやタブレット等にアプリ「ウェブエックス (webex)」をダウンロードしてください。

④ 北本市社会福祉協議会へ3日前までに。また、日曜日・祝日は24時間FAX対応し、返事は翌日になります。
⑤ 北本市社会福祉協議会（小倉、池上） E kitasyuwa@mb.jnc.ne.jp、FAX 592-6460、☎ 593-2961

手話通訳のお仕事

北本市社会福祉協議会で「専任手話通訳者」として活躍する小倉明美さん（写真左）・池上美津子さん（写真右）に、あまり知られていない「手話通訳者」のあれこれを訊きました。



小倉明美さん

池上美津子さん

好きな手話 左手の立てた親指の背を右手のひらで前に押し出すように2回叩く
手伝う

好きな手話 両手2指の輪をつなぎ合わせる
つながり

— お二人が手話通訳の道を目指したきっかけを教えてください。

小倉さん 最初は一般企業に就職して、手話がかじった程度でした。聞こえないお客さんを拙い手話で対応したのがきっかけで、手話に力を入れて聞こえない人たちと触れ合うようになったんです。家に招かれたときは、全く音がない家にシヨックを受けましたよ。「聞こえない暮らしはこうなんだ」と一生懸命伝えられ、力になろうと。結婚式の手話通訳を頼まれたことも大きかったですね。当時は通訳の資格もなく、出会って1、2年の私をそこまで信頼してくれたことに心を打たれて、本格的に手話通訳になろうと思ったんです。

池上さん 友人が大学に通い直すときに、自分も何か始めようと思っただけで、手話奉仕員養成講習会を知りました。学び始めて、通じた！嬉しい！と楽しんでいましたが、通訳の先輩たちが本当に忙しそうで、通訳者の必要性を感じて、手話通訳者の試験を受けました。

— 手話通訳者には「専任手話通訳者」と「登録手話通訳者」がありますが、この違いはなんでしょうか。

小倉さん 登録手話通訳者は、派遣先に出向いて通訳を行い、報告書を提出します。派遣先は、行政の行事から聞こえない人が行く病院や学校などさまざま。専任手話通訳者は、派遣内容に合わせて、依頼者や通訳者のコーディネートを行います。登録手話通訳者さんと定期的に会議をしたり、依頼者の聞こえない人たちの相談に乗ったりもします。もちろん、私たちも通訳を行いますよ。

池上さん 登録から専任の手話通訳者になると、聞こえない人たちの関わりも深くなって、初めて知るところがたくさんありました。もっとサポートが必要だと思っていたのが、独力で生活している姿を見て逞しさも感じましたね。

「この人の言葉をそのまま伝えよう」と思うなら、性格や背景も理解しないとけない

— 手話通訳をするときに意識していることはありますか。

池上さん 「間違いないように」というのはいつも意識しています。それに、聞こえない一人ひとりに合わせて気をつけることがいろいろありますね。「通訳の先輩たちを助けた」とこの仕事を始めましたが、現在は聞こえない皆さんに、「池上なら」と信頼される手話通訳者になりたいし、「通訳がいたおかげで何とかだった」と言われるとやりがいを感じます。

小倉さん 手話通訳者と聞こえない人の絆ってとても深い。「この人の言葉をそのまま伝えよう」と思ったら、その人の性格や背景も理解しないとけない。時には、家族以上に近い関係になることもあるんです。それをベースに意識しているのは「この人は手話通訳者に何を求めているか」ということ。



小倉さん、池上さん含む手話通訳者や手話勉強中の人や興味のある人、聞こえない人などで構成する「手話ベリかふえ」のメンバー。手話でのおしゃべりを楽しむカフェを切り盛りする。

手話通訳豆知識：通訳者の皆さんは黒等の濃い色の服装が多い。これは、手話を見えやすくするためです。